

紫文製錦

三

5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4

紫文齋錦三書目錄

急部

始言急 <small>初</small>	通書急 <small>日</small>	結急 <small>二十</small>	逢急 <small>日</small>	子急 <small>六</small>
由急 <small>八</small>	見急 <small>十</small>	增急 <small>十三</small>	契急 <small>日</small>	恨急 <small>日</small>
思急 <small>十六</small>	切急 <small>十七</small>	悔急 <small>二十</small>	福急 <small>廿一</small>	疑急 <small>廿三</small>
難急 <small>廿五</small>	過心急 <small>廿六</small>	幼急 <small>日</small>	那急 <small>廿七</small>	尋急 <small>廿九</small>
相急 <small>日</small>	夕急 <small>三十</small>	夜急 <small>廿一</small>	去急 <small>廿二</small>	交急 <small>廿三</small>
秋急 <small>廿七</small>	冬急 <small>日</small>	雜急 <small>廿九</small>		



紫文製錦三卷

安藝 源 稻彦 撰

戀部

始言恋

如藤世下少原成公初

ねむりもいふまじかきわすしがこまにたがひしおの
かへてすまじほるまじかきて身なまはるまじやせの
思をたのむがふえしうきまじけれまじうもむ
かよふまじいふまじかきあつれが女かやうまじかき

たまはなうきひるまふしあはるいかにあはれおぼ
さまにて。

袖かみゆいのみは香かほよふんふかむかたのてんふん
なりもはすれしきしあはれひんしひあはれ
いひにふしあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

通書巻

二二日たてはつれからゆめれあはれあ
あをれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

待急

いかにあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあ

ハシタシハ

昔昔つぼかゝる人花はりくたんぞなほハハバハハハ

夢になしつゝあつたふさふさのあつたあつたあつた

わのいがさげな。今ぬれぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

かきあしあしあつたる。あつたあつたあつたあつた

くしあつた。

花宴四下

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

に月いあつたあつたあつたあつたあつたあつた

三三

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

のゆけはきつるあわづ一ははまよひき思
こゝだかしら^{あはれ}しきなりなふしのしりぬい
うまのいぢらなりやまなんせいのわがが
かぎのまじげ

睡月夜

うき世なやがてきなげめても草けつをい
いよやまもまじらふまゑにまめきたのい
のやまきつしたうたるもどかな

依日君

いぢらぬとあはれやせりをわかじまよ小世ぐり
風と社わけわづらうおがすまよなすはな
世三

はくまむまゝすがたもよるのこゝろもあひびく
さむねとけはつるひのよまゐりちぐり
まよいはいとわりかゝて扇をうらやあ
出むむぬ

賢木十九下

〇又たんけいぶがうけいごあまてつあみおはま
まをうがむて例はあはれやうに
おろしたるおそやのつわひのよ中納言け
をいれたてふはうたり人あもきげ
はのいりまはちうなるをうら
物

いふよりしてまはるる人あはれにまはるるまはるるまはるる
てめはうしきがやまのいあるいあるいあるいあるいあるいある
ろかたうし。

明石 四十四丁

〇かほるるるあはれにまはるるいあるいあるいあるいあるいある
がやあさまさままであはれにまはるるいあるいあるいあるいある
いあるいあるいあるいあるいあるいあるいあるいあるいある

別恋

第本 四十三丁
身も志ばくたうふあわでーと

浮城

ほれなきうらみをとてあはれにまはるるいあるいあるいあるいある

おどろかすむ。

文 四十一丁

〇あはれにまはるるあはれにまはるるあはれにまはるるあはれにまはるる
たげなるけいあるいあるいあるいあるいあるいあるいあるいある
あみかりを問あけてあはれにまはるるいあるいあるいあるいある
あやういあるいあるいあるいあるいあるいあるいあるいあるいある
いあるいあるいあるいあるいあるいあるいあるいあるいある
らむあはれにまはるるあはれにまはるるあはれにまはるるあはれにまはるる
本おはれにまはるるあはれにまはるるあはれにまはるるあはれにまはるる
うあはれにまはるるあはれにまはるるあはれにまはるるあはれにまはるる

やかたはまぢりたるはくしゆのふたつはひら
 らむのふたつはひらむのふたつはひらむ
 とはひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ
保成志
 けまはひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ
 のふたつはひらむのふたつはひらむ

才助
 朝まはひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ

賢ホセ
 女もえさるはひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ

不れ見たてまはひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ
 わるに不むなむのふたつはひらむのふたつはひらむ
 はひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ

総角五十三丁
 〇わろき人れはひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ

あまはひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ
 香なむのふたつはひらむのふたつはひらむ

カカ
箱本廿五丁
 〇はひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ
 はひらむのふたつはひらむのふたつはひらむ

〇のさしてぬかちいけいあはしむももろかちいけい
まかよのうらふかにおしあまうとそいざやあまうじ

由ゆのまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

まうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

洞ほらまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

くさぬそ風まうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

かのがさぬまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

いのりあまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

もけいこいもたうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

にうがうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

見入

非ひの二にイイササおははは婚者けいかにありまほかに中なかの志

まわらあまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

まがよあまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

房あまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

に屏風まうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

見えぬあまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

もよあまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじまうじ

万葉集に「あはれむすもみぢの」
 りきはばらけくはるるをみよむら
 ちぎなく見せるわがはなを
 ぎやうはよおむちりしき
 けさまならみほのよあけ
 かよきるらわらむらむら
 見ゆれもとるむらむらむら
 おるなむらむらむらむら
 はえわらむらむらむらむら

万葉集

けぞなくはるかむむらむら
 にいそむらむらむらむら
 むらむらむらむらむらむら
 むらむらむらむらむらむら
 ちりむらむらむらむらむら
 むらむらむらむらむらむら
 さいむらむらむらむらむら
 はもむらむらむらむらむら
 〇第百二十九
 若菜五百二十九

花は本にめでつけてながあやほ大拍らうらうら
にあやかりけるこひのすまがけかきさげらるもや
あしじもあもさあふ

百四十四 宰相ははらうぼのしんやなわしたたき

かぎぬもあしじまらうらうらうらわらな

るにもわらうらうらうらうらうらうらうら

物うらうらうらうらうらうらうらうらうら

下二十 うらうらうらうらうらうらうらうらうら

てまめらうらうらうらうらうらうらうら

三十一

六十 ままうらうらうらうらうらうらうらうら

かくわらうらうらうらうらうらうらうら

やうらうらうらうらうらうらうらうらうら

たうらうらうらうらうらうらうらうらうら

いでうらうらうらうらうらうらうらうら

まはうらうらうらうらうらうらうらうら

ひかつらうらうらうらうらうらうらうら

はうらうらうらうらうらうらうらうら

東屋世五下 うらうらうらうらうらうらうらうらうら

と。いふは、
なぬわもは、
がしてさ、
ちにおさ、
かりてさ、
すよう入、
せんをけ、
ゆるかさ、
たぐまし、

わのれく、
―にかよ、
やをうあ、

増意

^{花田六十八}
さりのり、
むとねと、
さる。
○がて、

たまつるやげじよ。あつんかく。おとかげにさむけ
れば。あやうけあつるやとわれなづらうおがさる。

契恋

相屋十セウク
初ゆふれしとくさにてぬをなづらふをかははじと
ちさつせあむしよ。なばらける人なれやどろ。はま
せびうらひき。

夕貞廿二ウク
〇長生殿れあつきたり。はせくそ。をぬかかえ
や。はせきかして。強執れせまづなぬま。

恨恋

賢木大丁ウ
月せりのあつるや。あはれなるうそをなづらふ。うそま
あ。まよふ。あつら。おもむあはれたまふ。うそま。

ねべー

明石四十二ウク
〇うちすてあつる恨れや。ういなきに。面鏡うそてわ

すしぐい
すしぐい。うそま。たけこも。は。を。な。づ。ら。に。あ。げ。あ。り。
標優十三ウク
〇あをし。な。ほ。し。い。よ。べ。け。け。り。い。や。あ。と。な。づ。ま。ま。な

ら。の。ど。ろ。れ。ま。の。か。ち。ち。ほ。は。う。あ。と。れ。祓。の。な。ま。あ。ま
たり。し。も。す。べ。て。ふ。と。ま。ゆ。の。こ。ま。ゆ。の。こ。ま。ゆ。い。は。ら。ま。も。
われ。は。ま。い。た。く。こ。ろ。が。な。り。せ。あ。も。ま。な。げ。ま。う。く。す。

師をよのたに
此二字今むら
し。あ。つ。る。く。又。八。回
し。と。深。ゆ。か。か。あ
は。く。は。い。が。ま。る。

さびやてもふとわけあひけむいよ心だんまじりかまむ
はぐりぬれてこれにわれをうちうむきながめてあひ
しなる一せはさまかなんむもかともやうにうちな
げきて。

^{学上} ^{保良} 誰にもの世をゆはなれどとわれがけづりに
さしたるやまじりなまをいやうやうや。

あけむぞいでやうぐんをむい命ころか
なむかいうべいとれなれちるなまことにてむむ

んかかぬやあふもたぐむとせゆあぐやとてやう
れあをいひやかはとりにうけうたをやぎあふふ
もれからさすにちあねまかころはききてもあむ
しあまじりがなるしあひやうづきてちちちな
あまよなちうしあひやうあつちがは
^{権十一才} 〇さいすがいまかまじはしあひあふ女あはらやのな
やまーくもあひなるたかやういなんとては

川まはりまの。ききま
ふろ。なれゆはら
ゆくの。なま
まけれ。
なれゆはら。うき世な
水ハやすまはのまの
ききま。まよなる
らん。

いおもつれば。いとやもをび。わらぎ。いとま。あそびま
ぎ。おをす。うば。あれた。な。ぬ。あ。お。く。い
け。ま。け。か。い。け。う。か。な。づ。こ。も。な。や。あ。か。や。き。な。れ。
あ。ま。の。あ。な。し。う。づ。て。な。く。お。が。さ。る。う。ま。お。と。て。な。た。あ。
く。と。ま。さ。い。つ。な。な。ぎ。さ。こ。も。い。な。し。ゆ。く。う。け。な
う。き。あ。お。か。か。の。け。し。と。ば。か。り。ま。て。う。ち。う。む。さ。て。お
く。も。つ。い。え。す。て。い。で。あ。う。ら。お。う。け。れ。と。や。に
い。せ。う。う。こ。同。く。あ。む。て。け。れ。ば。出。あ。む。ぬ。
〇か。さ。さ。む。し。る。い。づ。と。も。ぬ。ぎ。あ。う。て。こ。ら。り。と。な。る。み

夕暮六十七ノ一

ゆりかき。ひ。た。き。あ。あ。む。め。だ。う。け。う。む。け。き。し。て。い。で
あ。を。か。か。げ。あ。見。つ。て。あ。け。む。が。く。な。さ。この。出
くれ。ぬ。び。や。あ。あ。く。む。く。れ。袖。を。む。く。よ。た。く。
か。さ。さ。む。し。う。み。ん。う。ハ。松。を。ま。は。あ。ま。け。う。ら。ま。よ
た。ら。や。か。ま。し。
宿木五十七ノ一
〇や。い。な。む。く。も。ん。ま。い。あ。い。と。ま。い。し。て。す。は。あ。い。り。
本。丁。と。す。し。お。い。れ。で。倒。れ。な。ま。く。い。や。う。ら。う。づ。き
う。ら。あ。あ。う。い。と。く。も。い。は。し。び。わ。り。な。う。と。あ。が。て。あ。お。ぬ。れ
い。な。む。し。う。人。お。ち。か。ら。あ。ま。さ。て。む。の。な。い。い。し。た。い。な。い。

おたけ

おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら

田舎

世の八十八
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ

たぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ

田舎

本四十五
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ

おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ
おぢいさまの御手紙をよみながら
しるしをたづねておぼえぬ

かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ
とかなるちらぬ

^白まはるちらぬものぞかゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ
にまはるちらぬものぞかゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ
かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ
かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ
かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ

^舟かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ

かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ

悔

かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ

かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ
かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ
かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ
かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ
かゝるかたをいふはきつむいかにとあはるべきものぞ

かりかどうけいりかなむがかりけりやまをいふ
 そのぬいせいのむすもむすもてこたなきがてその
 なるすけりもいふむなるてはの世のたなきもいふ
 かくすいせいなるむすもたけはういふむすもて野はも
 あくがしむすもたけはういふむすもてかばも
 けまかうけりもたけはういふむすもてはむすもてに
 存にたまふくもあはむもたけはむすもてかばも
 身にいふいふむすもたけはむすもたけはむすもて
 けりもいふむすもたけはむすもたけはむすもて

三三

けりもいふむすも
 けりもいふむすも
 けりもいふむすも

けりもいふむすも
 けりもいふむすも
 けりもいふむすも

らむいふむすも神仏もたけはむすもてはむすもて
 けりもいふむすもあはむもたけはむすもてはむすもて
 はむすもてはむすもてはむすもてはむすもてはむすもて
 うらむすもてはむすもてはむすもてはむすもてはむすもて
 人あはむもてはむすもてはむすもてはむすもてはむすもて
 せむすもてはむすもてはむすもてはむすもてはむすもて
 ちちむすもてはむすもてはむすもてはむすもてはむすもて
 もむすもてはむすもてはむすもてはむすもてはむすもて
 もむすもてはむすもてはむすもてはむすもてはむすもて

かてらハ、おとけなくまはさしはなすむいふまゝいあ
らむやれが、かこいづらおもむかすむじが、い
おもむやまうむむいばらばらむいむいむい

難念意

サカセト

申ゆるもすむらあきかせむいにもすむらま物
とねたうらんにかけてあむいとおふ人れいもは
さしあかしてありはるいおむけむすむいむい
さハ、いふおむけむらあきまきむいむいむい
はらむらまきむいむいむいむいむいむい

と、なすむらあきむいむいむいむいむいむい
もむいむいむいむいむいむいむい

過門意

サカセト

か、何れもむらあきむいむいむいむいむいむい
なすむらあきむいむいむいむいむいむい
かきあをせにむいむいむいむいむいむい
まらむらあきむいむいむいむいむいむい
見いれむらあきむいむいむいむいむいむい
まはらむらあきむいむいむいむいむいむい

けいこおかしきと。たごもめとあまひーやどりなり。
 小おもむ出ぬまた。なごんがふとふけのせぢが
 めしーくやとほしきまゆゆぢがせがしなよやすひ
 むよとらしむがとこじなきてわらりあか
 きこしがほなれいばまががくをまきて例のこ
 きしめいしたまふ。
ほ氏の
 をちかづちがむとれぬ時を不れしこむー
 宿れうきひよ

幼妻

ひげは十丁ウ
 おかしかりはる人ねたごりたひしんむとらひし
 ほしうたまつり目たろうおんせれこむさあきそよ
 之やとたまふよかんきよせれをかしいたるぬば
 うちあきほしきむわしまつりあかしきむなせと
 やとあま。
お義女十九丁ウ
 〇いづれいせあでたくこがれかまたるかほ氏のかきなせ
 てやうなる不とは。あしーくやあるとのこま最上の上はうな
 けきたまふ。
お
 〇ちむさじが本下むきあげて。んをりぬばうちろ

かきてはらうもあつてさまあかぬやころなりがかけ
れはうらめかいらつきをたがはるはく同し
人れはさままたふはなもなりゆくかみと見あふ
いと
〇恋とはおろかなやとのまづはうらなうき
あふさまとぞなきげなり

顕恋

あま下八十二オ
まじおすぢはかぢよわらうあひむとくやくちきあふ
よべかいらつをおとせぬははめくはありはれして

御扇はかきぬむくははようたぬあつうかまは
うらとたちとまうて見ぬよにうらとぬけすこまむ
たのたまふあせこぞのけうぬやうあふ又の御もた
はかんゆゑなうらなくむきづぶらんとすに
せとせはるなりかたはなむとちんいよとあひ
つかまげまなりかたはぬいよとせとあひ
まきるべきかたなくせむとのななりうと見多ひつ
〇おまはけしはなほあやしくおほなるはひもあ
方にうらちかつしきくまはぬらし人かたうにか

口下八十三オ

おのれはあつたにふりてあなちなるはしつたり
おまやうらふともまはるあなごう

朝恋

いやははむてかきもあまきりしちなるふたれ
ぼーんごうちたはひあはれまのこた
かむたてはむかひあはれまのこた
あさごうらふたはひあはれまのこた
おまはるあなごう

おまはるあなごう

おまはるあなごう
おまはるあなごう
おまはるあなごう

おまはるあなごう

おまはるあなごう
おまはるあなごう

夕恋

おまはるあなごう
おまはるあなごう

ものまをい

種 十六丁オ

○おもしろいものばかりで、
おもしろいものばかりで、
おもしろいものばかりで、

一はらり

保良之

はらり

ろくろ

総角 十三丁オ

○よくちかどなるかかげ、
よくちかどなるかかげ、
よくちかどなるかかげ、

。世一

口 十七丁オ

○火がのちかどなるかかげ、
火がのちかどなるかかげ、
火がのちかどなるかかげ、

か

口 廿九丁ウ

○いよいよあつたあつたあつた、
いよいよあつたあつたあつた、
いよいよあつたあつたあつた、

口 廿九丁ウ

○いよいよあつたあつたあつた、
いよいよあつたあつたあつた、
いよいよあつたあつたあつた、

〇^ハ六十九丁オ
夜いづくやちかくなむのさうめすかたは
たし人におもひけなむすにらむさしあ
わしちのさうめすて火あやうーなむ
もいさあわむーちかくなむさしあ
かろ。

^白いしむのさうめすはすんをさうめすか
かろ。

まゝ

竹川十八丁オ
いづれはさうめすのさうめすはすんをさうめすか

桐^ハ三に。夜^ハつる
く^ハあてきんこ

見ればさうめすのさうめすはすんをさうめすか
いづれはさうめすのさうめすはすんをさうめすか
あむさうめすのさうめすはすんをさうめすか
もむまむ。

字^ハ廿三丁オ

〇^ハ六十九丁オ
夜いづくやちかくなむのさうめすかたは
たし人におもひけなむすにらむさしあ
わしちのさうめすて火あやうーなむ
もいさあわむーちかくなむさしあ
かろ。

少無むもはかへらふ人かへはむにぞ
 似るべくもあはきりしつちやまなる部ハ
 まよひにやぶとてしんらうすりかぶる部あはむに
 けがさなるすべしはむにうけいなるさきた
 の人れを廻らほしむるかなんらうあはむとや
 とむかひしてなるくおあはむにむにむにむに
 ぶたへなまがらうかかしてあはむにむにむにむに
 しむやうづむたうあはむにむにむにむにむに
 人とはあはむるはむにむにむにむにむにむに

かへらむにむにむにむにむにむにむにむに
 する人もあはむにむにむにむにむにむに
 くてまむにむにむにむにむにむにむにむに
 むにむにむにむにむにむにむにむにむに
 のあはむにむにむにむにむにむにむにむに
 いとむにむにむにむにむにむにむにむに
 もあはむにむにむにむにむにむにむにむに
 見してまむにむにむにむにむにむにむに
 してむにむにむにむにむにむにむにむに

己んせあつなむれいけやすうんおあひん
あすのよあんとかほいきほらなくてまもりた
ちしつちとまよ

口^{〇二十一}女まじはかいらいおあがげなあるいあれう

かたしひまもろいおあがはとらんたうらさうら何

あをびううあひれあしきしまであてよかを

つちもいそげしおあかきかこいあひんあ

あかうらとあがてい^{〇廿四}あつちあひんあすあ

あうなれ女例なあひんあひんあひんあひんあ

はなごあがけれとてあなうにありて大威ふ守

もけむとんれあうあてまわれさうあひんあ

いあなる人いれあかあひんあひんあひんあ

ますあもてあやあひんあひんあひんあひんあ

あ孫んすうあひんあひんあひんあひんあひんあ

はらわらうあひんあひんあひんあひんあひんあ

けしうかうまはあひんあひんあひんあひんあ

きたるあひんあひんあひんあひんあひんあ

あへんあひんあひんあひんあひんあひんあ

のよれおなぐくねがわたり。いづれおふさすな
どは。おさうめをいぞなわをほくならよせ。いづく
もあつぬ。おめし人。よわをせまよ。うてむとつ
なりのか。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
しき人。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
かぐさめん。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
昨日か。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
らま。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
ぬ。

秋恋

総角 廿九丁オ

あふむと。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
のわら。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
しき。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
宿木 世三丁オ
の風。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
き。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
も。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。
の。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。いづれ。

〜あにもやうなげの〜

中込 ねかしんきんちん〜

三枝の〜

ひさ比の〜

己になるもわし〜

同や〜

刺す七ねのな
けいあ母の柳の下
にのたまふつゝ

冬 恋

橙 廿三丁

も〜今〜は〜も〜

てあ〜げ〜よ〜

あ〜ら〜い〜ま〜あ〜い〜め〜な〜む〜

ふ〜が〜う〜と〜ま〜ん〜じ〜と〜す〜う〜か〜い〜

なく〜う〜き〜く〜げ〜な〜り〜か〜ん〜ご〜

の面〜か〜げ〜よ〜と〜ち〜い〜く〜め〜た〜

より〜か〜い〜し〜と〜べ〜し〜と〜

か〜い〜し〜と〜べ〜し〜と〜

けうきねう

ま本粒十に十オ

〇たち〜

う〜ら〜あ〜る〜

袖は氷もさしあかかたもなむもさるるに
つら

保正廿四丁

○大将のまはるるに
出ぬしものもさるるに
しものもさるるに
てはるるに
なるともさるるに
まはるるに
さるるに

わくおろまはるるに
れはるるに
とまはるるに
むもさるるに
くはるるに

雑意

保正廿四丁

いんまはるるに
まはるるに
さるるに
にあはるるに

あつていふものもいふ

西石 四十三丁

〇女もあつていふものもいふ

一〇〇〇

口 四十四丁

〇いふものもいふものもいふ

不ふものもいふものもいふ

いふものもいふものもいふ

〇いふものもいふものもいふ

人のあつていふものもいふ

標 十六丁

〇うらあへいふものもいふ

たまたま女もあつていふものもいふ

〇いふものもいふものもいふ

はかくもいふものもいふ

やふものもいふものもいふ

あつていふものもいふものもいふ

〇いふものもいふものもいふ

たまたまいふものもいふものもいふ

やふものもいふものもいふ

松 四十二丁

〇あつていふものもいふものもいふ

あつてねくねががたがたのうたをうたう
さうせいのうたががたがたのうたをうたう
にうたががたがたのうたをうたう
さあせいのうた

。目十六

。月があらまなこしをうたう
らうたががたがたのうたをうたう
はうたががたがたのうたをうたう
あつてねくねががたがたのうたをうたう
さあせいのうた

ほふふ

あつてねくねががたがたのうたをうたう
さあせいのうた

。目十七

あつてねくねががたがたのうたをうたう
さあせいのうた

。目十八

あつてねくねががたがたのうたをうたう
さあせいのうた

ほふふ

あつてねくねががたがたのうたをうたう
さあせいのうた

。目十九

あつてねくねががたがたのうたをうたう
さあせいのうた

花なまのうらみ...
 ちかちか...
 とし...
 まく...
 ら...
 ち...
 ち...

ち...
 ち...
 と...
 か...
 女...
 ち...
 ま...
 う...

百廿七

。S...
 だ...
 し...
 は...
 ら...
 文者
 だ...
 だ...
 だ...

百廿七

だ...
 だ...
 だ...

百廿七

だ...
 だ...
 だ...

百廿七

かきだまなればいねがらびららたげようち
なへなまきん〜おまをよららるがふけへん
や。
○多木下六丁オのるん
あはさつがねらう〜いねなや〜なまき
人けねがらか〜るまのよななまきすねは
なまきふまのま〜まきま〜まきまかま
う〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま

どらた〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
多木のま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
かあまきん
○六十三丁オのるん
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
か〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
よ袖はま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま

〇六十二少中名河
 〇七〇がかりははりきりもあはれ〜
 ちかき〜
 一ちかき〜
 〇七十一
 〇七十二
 〇七十三
 〇七十四
 〇七十五
 〇七十六
 〇七十七
 〇七十八
 〇七十九
 〇八十
 〇八十一
 〇八十二
 〇八十三
 〇八十四
 〇八十五
 〇八十六
 〇八十七
 〇八十八
 〇八十九
 〇九十
 〇九十一
 〇九十二
 〇九十三
 〇九十四
 〇九十五
 〇九十六
 〇九十七
 〇九十八
 〇九十九
 〇百

本登世六十

〇六十一
 〇六十二
 〇六十三
 〇六十四
 〇六十五
 〇六十六
 〇六十七
 〇六十八
 〇六十九
 〇七十
 〇七十一
 〇七十二
 〇七十三
 〇七十四
 〇七十五
 〇七十六
 〇七十七
 〇七十八
 〇七十九
 〇八十
 〇八十一
 〇八十二
 〇八十三
 〇八十四
 〇八十五
 〇八十六
 〇八十七
 〇八十八
 〇八十九
 〇九十
 〇九十一
 〇九十二
 〇九十三
 〇九十四
 〇九十五
 〇九十六
 〇九十七
 〇九十八
 〇九十九
 〇百

さまはらうらまはなごともさうせたるむとまはなれ
 めなうひいーくくうあづけれあやういはん
 もなうおがーいーくくをこ後とおももろけい
 せあうまーくかんせいさうがーおれ人なうーと
 へれておすれあむなんがうさーいとあうあこぬ
 べけいおもむこだれさうさーまむ月さうまよ
 なうおれさうあつおむせまなうさうてく
 おふすさうせわとーおもむのいさうあはじがー
 と見あーとんむーあざいぬるあさうさうあ

三三三

てかーさあひはくさうすらふやうくさうあうあはし
 くけり一白なんがーかあさういけらかきあまは
 も見あむはづーこあれえもちうさうわとなりあ
 けられおははうなきうだてもおははうらあさまー
 きんあはまのやもさうぬくわーてんと思
 てるのあまかおれ人のあまなるいさうさう
 まうけいさうあはしとあまうーあかあま
 らでさおあすさうさうとあかあま
 く(いさあま)あまあまあまあまあまあまあまあま

おもかげもあがせられなうも。うたてくも
れやとらもついでなれぬ。

男ヲはまじりうらなれまおがいで女のま

さうもつらなうたなげんなくしてかきい

もよおせい。

女メがきあつあつらうらなれにまよわさ

洞ツとすれいざだつたなうらなれい

宇治ウヂちよなうらなれいんちよなあや

かまらわくちよなうらなれいんちよな

紫三

はまの世はあやうきうらなれを朽せぬもれ
かふあはれとや。

けいこたれさかすうけづさくあきぬ又紅

梅はゆりものなげあをせゆきかつてわぬ

侍はもあやうきあむさうらうらあざき

ばうれもいさうあむさうらうらあざき

まのせあな娘あはれをなうらうら

もねあまもむてんうらうらあざき

おやかれとらかりけさまたらうらうら

きあふぬおいらつらつらととおろふよとすはま
しきんはばあつたまなり。

〇六十九丁

心をいひまきりほろりしむわらふまにこそ
いよくおもむきだもあとおろてしつらふに
いりきてあつはらまかふらふしつとせぬと枕れ
やうくうきあふかほいらふらふしつとほし
はとあてもあやかかんまをさくつじこふた
こともけらるなびふおむらかけなむして経よ
むおやにさけきもらんほらうーながむあ(と)のこ

紫三

おもふありーあふらういでてかきもむしてほ
きかおれもむをなせむむをけりたむやうた
がゆれはよむとあつはらふさくさなるにいな
ほつまむさくまきりていーとおもふ 中界 おわもい
ゆゑ一く例いもあ思いでぬをらかほらふや
うなるもあしー 中界 文はうへとおもむいでまあゆも
すべていまむとをむゆーきんおやかり は井之白

よりにをなげむと
あふやどけさまなり
〇七十一丁
世はかういえあつとけまーもさまはかのあして

いんかおやまはまほおとろかされてお地獄
 洞のつゝもむて物もいれずたをむとちかく
 めはもてかくなひものおおやせむよはふをれ
 おしむハあくからざるもはなれにむあまらび
 きたるむかづいしおおがうかむかしてうま
 いらにもおりまはなんんちなけんかへんあ
 をかへはあてうーあつとをん
捨捨十七下ウ
 〇いゝくもおがいたるはるかたといふなかりけれ
 せさすはたつてんよすくせなるけりたりじよこ

かぢれ糸のさばかりかづきまうあよこまか
 たちよりはじめてたゞいまれ世にいたぐおいせ
 ざめり見もみんとてもなはあなうんさまくま
 けてうぎりなまきんをおきておれまはんをつく
 まれむとたらさわざしてすはを紐まはりつゝ
 けいこちくはさくわくはふれ人をおがはゆかれば
 あつちあやまりにうらあひゆれ吾もかはり
 け身にてやまはれかものほむすあをもちたてま
 たりなうらまはれ人けらうたくおがゆかへおと

〇六十四
 〇六十五
 〇六十六
 〇六十七
 〇六十八
 〇六十九
 〇七十
 〇七十一
 〇七十二
 〇七十三
 〇七十四
 〇七十五
 〇七十六
 〇七十七
 〇七十八
 〇七十九
 〇八十
 〇八十一
 〇八十二
 〇八十三
 〇八十四
 〇八十五
 〇八十六
 〇八十七
 〇八十八
 〇八十九
 〇九十
 〇九十一
 〇九十二
 〇九十三
 〇九十四
 〇九十五
 〇九十六
 〇九十七
 〇九十八
 〇九十九
 〇一百

世の中はうきだが
 ちよきをなげけ
 せよ

うき世におともいふがなげけ
 ちよきをなげけ
 せよ

此の世は世にうきだが
 ちよきをなげけ
 せよ

78

この巻の終りにあるのは文のつぎの巻

葛城釋教識

六十五

紫文製綉巻三畢

紫三

